

大阪市 中教研会報

No. 134

編集者 大阪市立中学校教育研究会
発行人 大阪市立中学校教育研究会
会長 松井宏之
発行所 大阪市立中学校教育研究会
大阪市立南中学校
TEL 6271-1456

「研究と実践の往還」 と「協働性」を大切に



大阪市立中学校長会・大阪府公立中学校長会

会長 文田 英之

生徒にとって「できる授業・わかる授業」を実践することは、授業者にとって永遠の課題です。その理想に向かい努力を続ける中で、授業者は成長し、熟達の域に近づいていきます。教科指導・授業づくりの実践を支えるのは、授業者としての多様な研究心と飽くなき探求心です。その点で、深い意味での「研究と実践の往還」の積み重ねが大切であると考えます。

しかし、授業は担当している教職員の人間力、教養・教育観、教科全般に対する鋭い研究心、授業実践力によって多様性を持ちます。それゆえに、学校教育における共通の課題として、その普遍性を求め続けていくことは必要です。

授業づくりは「個業」の側面が強く、「極めてみたい、やってみたい」と自ら「学び」を求める人は多い。その姿勢は尊敬に値します。授業づくりに真摯に取り組む、日々の実践を重ねることで生徒との信頼関係が作られていきます。授業者と生徒との信頼関係が深まるほど「よい授業」に近づいていきます。授業者が生徒と共に学び合い、高め合う「授業づくりのパートナー」という自然な感覚を持つことが重要だと思います。

他方、教師の仕事においては「隣り合う関係づくり」へ発展させることが重要です。学校内外での多角的な協働が求められます。授業力向上の側面では、多くの授業実践と研究方法に触れることによって、多様な授業づくりのヒントを得ることができます。また、いろいろな人と出会って、学び合う関係をつくること、協働性と同僚性を高めることが、今後ますます求められてくると思います。

その経験と成果が授業者の資質・能力の向上の土台となり、授業実践力・研究意欲が高まり、その往還が自然なものとなり、生徒に還元されていくことは間違いありません。学校教育の「めざすべき本質」の責務であると考えます。

社会状況の変化も予測が難しい時代となりましたが、今日までの大阪市立中学校教育研究会、多くの先達の方々、現役の教職員の方々の「確かな研究と実践」の成果は「大阪市の財産」であると確信しています。

今後も大阪市立中学校教育研究会の活動、現役の教職員の方々の不断のお取り組みが本市の教育活動の更なる発展につながることをご祈念したいと思います。また、今般まで多方面におきまして、ご指導とご支援をいただきました大阪市教育委員会、大阪市教育センターの皆様方に深く感謝申し上げます。

「学びに向かう力」 をはぐくむ研究活動を



大阪市立中学校教育研究会

会長 松井 宏之

2021年度の「新学習指導要領」の全面実施を見据えて、本年度は「未来を切り拓く力を育む教育の創造～主体的・対話的で深い学びの充実に向けて～」をテーマに研究活動を進めてまいりました。

各研究部・各ブロックにおかれましては、このテーマの実現を目標に、研究を進めていただきましたことに厚くお礼申し上げます。

8月30日・9月2日に行われた各ブロックの研究発表会、そして10月9日を中心に行われた全市研究発表会(全市研)で、公開授業や研究発表・研究協議等を行っていただき、大きな成果をあげることができました。特に全市研では、参加者の合計人数が3000名を超えるなど、会員の皆様の積極的なご参加をいただきました。それぞれの研究部の部長様やブロック委員長様を始め専門委員の皆様、大阪市教育委員会・教育センターの皆様、そして何よりもご参加いただきました会員の皆様に心より感謝申し上げます。

さて、年々子どもたちを取り巻く社会の構造が急激に変化する中、教育改革も急速に求められるようになってきています。子どもたちがこれからの社会を生き抜くには、どんな基礎学力が必要かをしっかりと見据えて、学び方を改善していかなければなりません。さらに学校教育において、社会に役立つ人材を育てるという視点も大切にしながら、「社会に開かれた教育課程」についての研究も重点的に取組んでいかなければならない時期に来ていると考えています。各研究部、各ブロック、各学校におかれましては、新学習指導要領の主旨の理解をさらに深め、積極的にお取組を進めていただきたく存じます。中教研の取組が、それぞれの研究活動を活性化し、目標達成の大きな力になるよう邁進してまいりますので、皆様方にはご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本年度も、各研究部長様・各ブロック委員長様をはじめとする専門委員・会員の皆様方に多大なるご尽力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。また、ご指導・ご助言を賜りました大阪市教育委員会、大阪市教育センターの皆様方に厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

部門より研究活動・成果について

国 語 部

「生きる力」としての国語力の育成

—自分の思いや考えを深める言語活動の充実—

池 尻 一 郎 (井高野中)

研究主題に基づき、日常の教材研究、授業実践、授業研究を伴う校内研修会と通して個人・グループの研究推進に取り組んだ。また、各ブロックや全市研究発表会等で、研究授業・授業提案・研究報告について協議することにより指導力の向上をすすめた。

全市研究発表会では、「漢詩の世界」において「現代語訳や語注を手がかりに漢詩に込められているものの見方や考え方を知る」ことに焦点を当てた研究授業を行った。

この実践では「漢詩」の鑑賞を、漢詩の「歌物語」と「和歌」を創作する活動を通して行った。漢詩の主人公となって一人称の語りとして漢詩を再構築させ（歌物語）、歌物語の主人公となることで生まれてくる情感を言語に還元させた（和歌）。また、情感を表す語彙の少なさを補うために類語辞典を活用し、想像する情感を表すのに最適な言葉を選ばせ、短歌を創作させた。

この実践を通して、情感を「悲しい」「うれしい」などとしか表現できない語彙の少ない言語世界にいる学習者が、未分化な情感に適する言葉を選択し獲得するという学びによってより豊かな言語の世界に開かれ、漠然としかイメージできなかった世界を言葉が一変させる力を有するという発見になったのではないかと考える。

授業提案「『書く力』をつけるための実践例—スモールステップで進める『書く』ための手だて」（指導部学力向上室 後藤准子先生）と講話「文学を読むことの意味—『語る力』を育てる」（大阪教育大学教授 住田 勝先生）をいただいた。文脈を作り、状況を作り、それに意味を与えること、それを自分の言葉で表出していくこと、そのことに意義を感じ、これからの時代の「文学教育」のあり方についてご指導いただいた。

子どもたちの中に、こう書けば褒められる作文、先生からマルをもらえる作文、というものができあがっているように感じられる。文学教育を通して生徒が自分を見つめ、自己を率直に表現する力を培っていかなければならない。

書写については「『生きる力』を育む書写教育」を研究主題にし、取り組みを進めている。夏季休業中に講師をお招きし、生徒向けの講習会（行書や篆刻）を実施した。10月の総合文化祭では、作品発表や相互鑑賞の機会として展覧会を開き、自尊感情を高める場としてパフォーマンス書道の発表に取り組んだ。

各ブロックの研究発表会の概要は以下のとおりである。

- 1 B 研究主題 「主体的で対話的な深い学びへのアプローチ
～ワークショップ（回し読み新聞を通じて～）」
内 容 ワークショップ「回し読み新聞」
講演「国語科教育の現状と課題」
- 2 B 研究主題 「美術科から国語科へ教科を横断した鑑賞授業」
内 容 研究授業と研究協議
- 3 B 研究主題 「主体的・対話的で深い学びの教材研究と指導法」
内 容 公開授業・ワークショップ・研究協議
- 4 B 研究主題 「『主体的で深い学び』は普段の国語科授業で十分足りる？
—授業実践例と展開アイデア」
講演・ワークショップ
- 5 B 領域の研究発表の年なので未実施
- 6 B 4 Bと合同で実施
- 7 B 4 Bと合同で実施
- 8 B 研究主題 「中学校国語科『書くこと』の領域の評価研究」
内 容 研究協議・ワークショップ

今後もこれまでの研究や実践を継続させ、国語部の研究活動がさらに充実するよう取り組みを進めていく。

社 会 部

持続可能な社会の形成者として、社会的な見方・考え方を深める社会科学習

鈴 木 慶 彦 (野 田 中)

- ・研究主題に基づき、教科指導・授業実践・授業検討会等を通して研究活動を行った。
- ・全市研究発表会は、主体的・対話的な学びの活動の中で、問いと資料を活用して学びを深める取り組みについて、基調提案と研究発表および公開授業を行い、研究の成果を各中学校の社会科教員に発信した。大阪府下の教員の参加も得た。
- ・大阪府中学校社会科教育研究会・堺市立中学校教育研究会・近畿中学校社会科教育研究会・大阪教育大学附属中学校と連携し、教員の研究・交流・研修を深めた。
- ・全国中学校社会科教育研究大会並びに近畿中学校社会科教育研究大会京都市大会に参加し、次期学習指導要領など今後を見据えた研究実践を社会部で共有した。
- ・大阪市立中学校総合文化祭の一環として、生徒研究発表会（展示部門・舞台発表部門）を実施し、会誌「みおつくし」No.60を発行した。
- ・会誌「社会科通信」を発行し、全校に配信した。

数 学 部

未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして

高 橋 哲 也 (大 淀 中)

- ・全市研究発表会は、令和元年11月15日(金)に天王寺中学校を会場に、「近畿算数・数学教育研究大阪大会」(近数教)と兼ねて行いました。
- ・この近数教では、市から2つの公開授業を行いました。1つは「平面図形」、もう1つは、新学習指導要領で新たに指導する内容となる「四分位範囲や箱ひげ図」にチャレンジしました。
- ・この公開授業に向けて、専門委員会を6回、そして、プレ授業も数回行うなど、先輩諸先生方が脈々と大切にされてきた丁寧な授業づくりに取り組み、成果を積み上げ、大阪市の子どもたちの学力向上に貢献できればと考えて活動してきました。
- ・さらに、夏のブロック研究会を近数教のプレ授業と位置付けたブロックもあり、近数教へ向けて専門委員が、時間を調整して積極的に活動に取り組み、その成果を大阪市内のみならず、広く近畿2府4県の先生方に発信できたのではないかと考えています。
- ・当日の生徒と参加した教員アンケートでは、肯定的な回答を多くいただくことができました。また、年間の活動を通しての専門委員のアンケートでも肯定的な回答が多くありました。その一方、専門委員の先生からは増員を期待する声や来年度の活動に対する不安の声もありました。
- ・いずれにしても、来年度は教科書採択があり、新学習指導要領の完全実施を控えた重要な1年になりますので、これまでの活動の成果を継承しつつ、未来志向の活動につなげていきたいと思います。
- ・後になりましたが、各指導主事、指導教諭、学力向上支援チームの皆様には、時間をかけて、数学部の活動に貴重なご示唆、ご教示をたくさんいただきました。ありがとうございました。

理 科 部

自然の事物・現象についての理解を深め、
科学的な見方や考え方を養う理科教育

堀 展 久 (平野北中)

- ・研究主題を2つのグループで分担し、調査・研究を進めた。
- ・指導法の研究、研修会・見学会を実施し、理科教員の実践的指導力を高めた。
- ・大阪市の理科教員に理科教育に関するアンケートを実施した。結果をもとに今後の理科部の活動に役立てていく。
- ・第66回全国中学校理科教育研究会秋田大会において、評価についての研究発表や参加を通じて研修を深めた。
- ・第71回大阪市立中学校生徒理科研究発表を実施し、その内容を「わたしたちの結晶」にまとめた。また、優秀な発表は大阪市立中学校総合文化祭や大阪府学生科学賞に出品した。生徒の自由研究の意欲と実験・観察の技能の向上に役立てた。
- ・全市研究発表会をやたなか小中一貫校(矢田南中学校・矢田小学校)で公開授業、研究発表、講演会を実施した。小中での理科教育の連続性や発達段階による違いなど理解が深まり、指導力の向上につなげることができた。
- ・第8回近畿中学校理科教育研究会大阪大会において、小中での授業づくりについて発表し、参加を通じて研修を深めた。

音 楽 部

未来を切り拓く、豊かな感性を育む音楽教育の創造

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

有 田 伸一朗 (淀 中)

心の教育を担う教科「音楽科」では、新学習指導要領の全面実施に向けて今年度は研究主題を一新した。

年間を通して、音楽科の目標である「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」の達成に向けて研究・研修を行った。

研究主題に基づき実施した「各ブロック研究発表会」での研究授業、および「全市一斉研究発表会」での研究授業および研究発表では、新学習指導要領を見据えた実践の発表を通して音楽の学力について考えた。

さらに、小中9年間の系統的・継続的な教育の在り方を学びあい、授業内容の工夫について意見交流し、普段の授業の悩みや疑問を共有することだけでなく、自校の課題解決や自己の授業の振り返りにつながる、充実した研究発表会を開催することができた。同時に大阪市小学校教育研究会音楽部と小中連携を深め、相互の研究授業への交流、音楽発表会への交流を全教員に周知し推進した。

一方、大阪府中学校音楽教育研究会と連携した夏期研修会、文化庁が主催する研修会(音楽部冬期研修会)では、文科省初等中等教育課程教科教科調査官による新学習指導要領の趣旨を踏まえた理論研修・実践研修を通して、指導方法・評価方法等の工夫改善につなげる研修を実施した。また、創作(音楽づくり)領域の授業力をつけるために東京芸術大学講師 石上則子さんによる、創作の指導法と授業づくりについて講義とワークショップを、鑑賞領域については、作曲家でピアニストの加藤昌則さんと、東京芸術大学弦楽4重奏団の演奏による、鑑賞領域の指導法と授業づくりを学んだ。

今後は、4年後の近畿音楽教育研究大会に向けて、各領域に分かれて、深く研究できる体制づくりを構築し、音楽科組織として音楽教育の質の向上と教員の実践的指導力の向上に取り組む。

美術部

社会とつながる美術教育をめざして

～未来を切り拓く子どもたちの育成～

石 川 文 子 (宮 原 中)

新学習指導要領を見据え、美術教育の可能性について積極的に研究を重ねてまいりました。また、生活や社会の中の美術、美術文化などと豊かに関わる資質・能力をより一層重視しています。

本年度美術部においては、『「社会とつながる美術教育をめざして」～未来を切り拓く子どもたちの育成～』を研究主題に活動を進めてまいりました。子どもたちが活躍する 20年後、30年後の未来を見据えた教育が必要となります。そこで、本年度も子どもたちが意欲を高め、進んで美術の学習に取り組むために各ブロックでの研究をはじめ、「美術を通して育てる力」「魅力ある教材（表現）」「魅力ある教材（鑑賞）」「評価の形」「ネットワーク」の5つのプロジェクトにおいて、「アクションプラン」として活動に取り組みました。また、各種展覧会（総合文化祭・美術展・美術部展 他）の運営においてもさらに充実した取組を進めました。

いずれにおいても来年度につながる有意義な研究を進めることができました。

保健体育部

保健体育授業における学習意欲を高める協働的深い学びの創造

－陸上競技（ハードル走）の指導方法の研究－

山 岡 伸 一 (此 花 中)

- ・新学習指導要領を踏まえ、「主体的、対話的で深い学び」の実現のため保健体育科の授業づくりの研究を継続的に進めている。
- ・全市研究発表会では、がんばる先生支援 B グループの選定を受け、「陸上競技（ハードル走）の指導方法」を大阪教育大学准教授 井上功一先生の指導を賜りながら、住吉中学校保健体育科 安田尚生教諭が公開授業、研究協議を行い研修を深めた。
- ・大阪教育大学准教授 井上功一先生から、「主体的、対話的で深い学び」という＜主体＞とは、＜対話＞とはという講演があり、＜主体的＞興味、関心、見通しを持ち、粘り強く取り組み、振り返りを行い学習課題の解決を図る。⇒指示待ちではいけない。また、＜対話的＞互いに受け止めて発し合う。相手を受け止め、わかってもらおうとする。自分についての考察が必要になってくる。といった説明があった。
- ・保健体育科教諭向けの伝達講習会として、5月中旬に鹿児島県で行われた西日本指導力向上研修会に参加した歌島中学校保健体育科 古澤 真也教諭と瑞光中学校保健体育科 福西 唯教諭から「体づくり運動」と「保健学習の進め方」についての説明を行い、参加した多くの先生方が、「各校ですぐに役立つ実技指導として活用できる内容」として研修を深めていた。

技術・家庭部

豊かな生活を創造する力を育む技術・家庭科教育

～主体的な学びによる課題解決学習～

宮 脇 敬 市 (東 三 国 中)

- ・全市研究発表会を大阪市立長吉西中学校で実施し、家庭分野の公開授業『B 衣食住の生活』、技術分野の研究発表『C エネルギー変換の技術』を行った。
- ・第58回全日本中学生技術・家庭科研究大会並びに近畿地区中学生技術・家庭科研究大会（兵庫大会）での技術分野研究発表『C エネルギー変換の技術』や参加を通じて研修を深めた。
- ・第19回創造アイデアロボットコンテスト大阪府中学生大会兼近畿大会を開催した。
- ・大阪市立中学校総合文化祭、全国中学生創造ものづくり教育フェアに参加した。

英語部

英語で積極的にコミュニケーションを図る資質・能力を育成する

－ 5 領域のコミュニケーション能力を総合的に養う－

井戸本 崇 志 (我孫子南中)

全市研究発表会において、春日出中学校の教員が、デジタルテキスト等 ICT 機器を効果的に使い、工夫された授業をオール・イングリッシュで行った。また、帯活動では、ペアになった生徒たちが、体調、曜日、日付、天気等に関して、主体的に行った。公開授業後、大阪成蹊大学 副学長 國方 太司 様をお招きして、「新学習指導要領を見据えた今後の英語教育と、小学校から引き継ぐ授業のあり方について」と題してご講演頂いた。「新学習指導要領で何が変わるのか、何が変わると考えるのか」、「ある場面で使用した表現を他の場面で応用させることができるようにするのが中学校の役割である」等、小学校から高校につなげる中学校の役割が、いかに重要であるかということ、肝に命じなければならない貴重な講演となった。

道 徳 部

人間としての生き方についての自覚を深める道德教育の創造

－豊かな心を育む道德の授業づくりをめざして－
 (道德授業の指導方法と評価に関する研究を深める)

安 藤 幸 人 (東 陽 中)

- ・道德の授業（年間 35 時間）を計画的に実施できるように大阪市教育局・大阪市教育局センターと連携して、研修を深める。
- ・道德教育推進委員会を中心に全市 130 校における道德教育の深化・充実を図る手立てを提示する。
- ・事務局体制を整備し組織づくりを進めるとともに、全市研究発表大会等の充実を図る。
- ・全市研究発表会 10 月 9 日（水） 大阪市立下福島中学校
 授業者： 中馬 佳菜 先生 資料名： ぶれない心 ―松井 秀喜―
- ・道德部主催で道德の土曜学習会【5 回実施】（東陽中学校）
- ・大阪市教育局センター主催（5 年次）研修に授業者として模擬授業を行う。
- ・道德教育推進委員会【3 回実施】
- ・文部科学省「道德教育の抜本的改善・充実にかかる支援事業」9 校の拠点校で公開授業
 令和元（平成31）年度「特別の教科 道德」としての授業が始まり、各校が教科書を中心に授業づくりを進めている。学習指導要領に則り、各校が量的確保と質的転換をめざし道德の授業を実践している。

特別活動部

生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造

進 藤 文 代 (白 鷺 中)

- ・キャリア教育講演
 「生き方をつくるキャリア教育 ～現状とめざす状態をつなぐ一歩～」
 報告者：NPO 法人 JAE 理事 （認定キャリア教育コーディネーター） 塩見 優子
 キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」である。以前は、「キャリア教育＝職業教育」に近い概念だったが、現在は、「生きていくうえで一人の人が果たす一連の役割全部を含めて、子どもに寄り添っていく」ことがキャリア教育の視点になるというものである。効果的なキャリア教育につなげるための実践例としては、1 学期に実施していた職場体験を 3 学期に変更し、1・2 学期の間から人前で発表する機会を増やすなど、学年計画を立てて取り組んでいくことである。「将来に向かって、自分がどういう努力をしているのか、子ども自身がわかるように繋げてあげる」ことが、キャリア教育にとって大切なことであり、また、教員だけでなく、地域などの外部の人たちも巻き込みながら、子どもたちを育てていくことが大切である。
- ・生徒会活動に関する実態調査結果報告
 「生徒会活動の指導法 ～あいさつ運動を例にして～」
 報告者：大阪市立大学大学院文学研究科 教職カルテ特任講師 小原 淳一
 平成30年度に実施した生徒会活動アンケート調査の結果、多くの学校で取り組んでいる「あいさつ運動」の指導が難しいという課題が見つかった。そこで、「あいさつ運動」の指導について考察することで、他の生徒会活動の指導にも生かせると考えた。本会の参加者同士でペアワークをおこない、「良いあいさつ運動とは何か」という意見交換をおこなった。その中で、「あいさつ運動」の見える部分の改善点は話題にあがったが、見えない部分（準備段階）に着眼されることが少ないことが分かった。特別活動は、生徒の自主的な活動の実現が目標にあるため、生徒会活動の準備段階の指導が重要になる。その際にロジャー・ハート氏の「参画のはしご」を参考にし、各校の生徒会活動に対する生徒の参画の度合いを考察することで、生徒会活動の活性化につなげられるのではないだろうか。

生活指導部

生活指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係機関と

連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制を研究する 源 嶋 史 展 (高 倉 中)

- ・発表・講演の概要

研究発表 1 「生活指導に関する現状把握とその考察」～知識と知恵と見識と～

大阪市立瑞光中学校 教諭 羽原 義章

平成26年度、29年度、30年度に実施したアンケート調査をもとに、大阪市の現状と問題行動の変化についての検証から、授業離脱、授業妨害、学校間暴力などは減少傾向にあるが、多くの学校で課題となっているのは、いじめや情報機器を介した問題行動であった。いじめに関しては、積極的認知の観点から軽微な事象も見逃さない対応により増加していると考えられる。

虐待の早期発見や学校不適応症状（問題行動、いじめ、非行、不登校等）の課題解決には、多くの情報が大切であり、一人で抱えこまずにチームで対応すること。そして効果的な生徒支援・生徒指導のためには、理由・原

因の見立て＝アセスメントとアセスメントを踏まえた合理的プラン、作戦作り＝プランニングが不可欠である。そしてそれぞれの関係機関ができることを理解したうえ情報共有し連携することで、支援体制を整えることができる。

我々教職員が、虐待やいじめ等への関心を更に高め、関係機関の役割を理解することで、生徒の変化を見逃さず、適切なアプローチをすることで、生徒・保護者の信頼を得ることがきる。

研究発表 2 「実践報告 P B S を活用した学校づくり」～地域と共にある学校づくりに向けて～

大阪市立井高野中学校 教諭 谷川 雄一

生活指導面で課題の多かった学校の現状は、問題が起こってから指導や、教員が頭ごなしの一方的な指導法を行っていたが、「望ましい行動を増やす」観点で子ども達にアプローチしていくという応用行動分析を適用した PBS を教職員全員で取り組んでいった成果として、生徒と教員の信頼関係が回復し、様々な行事に生徒たちが前向きに取り組むようになり、不登校生の減少などにもつながった。また、現在は中学校だけでなく幼稚園や小学校、家庭や地域にもこの考え方を広げる活動をしている。

講演 1 「ラグビーで育つ人間力」

常翔学園高等学校 社会科教諭 ラグビー部部长・監督 野上 友一 氏

新しい時代に必要な要素である未知の状況に対応できる思考力、判断力、表現力はラグビーの試合や練習でも実践していることであり、勝つために相手を研究して対応するために、色々な練習をすること、考えて解決していくことが人間力の育成につながっているとのことであった。人との出会いに感謝すること、指導者の人間性を豊かにすることなど、生徒を育てるには、指導的立場の人の姿勢や考え方が大切であり、指導者自身が見本となることの大切さとフェアプレー精神、ノーサイド精神などのラグビーの良さや素晴らしさも知ることができた講演であった。

・研究の成果と今後の課題

問題行動は時代と共に大きく変化していくが、常にその変化を見逃さないためにも、情報の収集と共有は不可欠である。その意味でも今回の発表と提供した資料は必ず各校の生徒指導のヒントになるものと確信している。ぜひ手元において活用していただきたい。

特別支援教育部

子どもたち一人一人が、共に学びに向かい

生きる力を育む教育をめざして 柿 花 正 信 (梅 南 中)

研究活動

1. 近特連滋賀県大会（近畿研究大会）での提案

今年度、大阪市は第 8 分科会「交流及び共同学習」の提案を担当し、全市から多くの教職員が参加した。また、インクルーシブ教育を推進する大阪市の取組について他府県市からの参加者からの質問もあり活発な研究協議が行われた。

2. 全特連・発達障害教育セミナー

全特連・発達障害教育セミナー大阪会場の開催に協力し、現地事務局としても多くの教員がその準備と運営に携わった。今後の研究大会等開催の為の経験やノウハウを得ることができた。そして全国から来阪する参加者と交流し、研修を深めた。

3. 全市研究発表会

今年度はテーマが不登校に関するものになり、進路指導を中心とした発表の他、各校の取組について実践交流が行われた。フロアーからもご質問、ご意見を多数いただき活発な研究協議が行われた。

4. インクルーシブ・フレッシュ研修会

全10回実施。経験の豊富なベテラン教員からの継承を目的とした講演を行った。また、大阪特別支援教育振興会の特別支援教育講座に毎回、多数参加した。

5. 年度末研修報告会

2 校からそれぞれ発表いただき、全校的な取組の様子と外部機関との連携について課題を共有した。

交流行事について

合同うんどう会、ふれあいステイ、ふれあいデイキャンプ、生徒作品展、卒業生を励ます会を大阪市中学校特別支援教育担任者会と協力して実施し、全市的な生徒及び教職員の交流を進めた。

保健養護部

養護教諭の専門性と資質の向上をめざして

吉 田 直 子 (新豊崎中)

- ・研究主題に基づき、各ブロックにおいて共同研究を進めている。

今年度の全市研究発表会では、第7ブロック共同研究「生徒保健委員会活動の活性化をめざして」ーピア・サポートを活用した保健教育ーをテーマに発表した。生徒保健委員会活動にピア・サポートを取り入れ、主体的に取り組むことができる保健委員を育成するとともに、委員会活動の活性化を図った。健康リーダーとして自校生徒の健康意識の向上やよりよい生活習慣が定着するよう活動を進め、生徒議会での伝達講習や区合同保健委員会の実施、区民まつりの参加など地域へ活動の場を広げることで、活動を活性化することができた。

また共同研究発表後、立命館大学大学院教職研究科 菱田 準子教授より、本研究へのサポートの様子とともに「子どもの Well-Being を育もう」をテーマにご講演いただいた。生徒の主体的な保健委員会活動のあり方を考える機会となり、大変有意義なものとなった。

- ・学習会（「学校保健活動に役立つタブレットの使い方」「中学校における口腔外傷 ー外傷時の対応と予防（マウスガード）ー」）、スキルアップ研修会（「ヨガ哲学に基づいたリラックス方法について」）を実施し、成果を得ている。

情報技術部

多様化する情報を活用する力を身につける

近 藤 正 宏 (本 庄 中)

- ① 情報教育部門・・・(株)SKY 梅南中 加治屋 直喜
「多様化する情報を活用する力を身に着ける ～タブレットを用いて授業をしてみよう」
- ② 新聞教育部門・・・都島中 井口 信茂
「第62回全国新聞教育大会の報告」
- ③ 統計教育部門・・・大阪市経済戦略局係長 福田 恵 東住吉中 小寺 英一郎
「数字で解説！「こども本の森 中之島」」

成果としては、情報というものの多角的な捉え方や授業への活用手法などが、参観者に向けて明確に提供できた。

教育メディア部

「生きる力」と「感動する心」を育む教育メディアの研究

(学校図書館・放送・視聴覚教育を通して)

原 稔 (淡 路 中)

研究主題に基づいて、学校図書館教育・放送・視聴覚教育の部門に分かれて研究活動を行った。

- ・学校図書館教育部門では、各中学校の学校図書館担当者を中心に、学校図書館を活用した調べ学習や読書活動の活性化を図るとともに、大阪市学校図書館協議会と連携し、大阪市青少年読書感想文コンクール・大阪市読書感想画コンクールに取り組んだ。
- ・放送・視聴覚教育部門では、近畿放送教育研究協議会および近畿視聴覚教育連盟と連携し、NHK 杯全国中学校放送コンテスト大阪大会、大阪市立中学校放送コンテスト新人大会に取り組んだ。
- ・全市研究発表会では、NHK放送研修センターの伊藤健三様に、「NHK for School 基礎講座」としてご講演をいただき、NHK for School の紹介、利用方法の説明をしていただいた。

教育課題部

未来を切り拓く力をはぐくむ教育課程の編成

安 村 哲 治 (旭 東 中)

- ・研究主題のもと、全市研究発表会において、小野田 正利先生から「学校と保護者のいい関係づくり」と題して講演をいただきました。難しくなる保護者対応トラブルの際に、解決までは無理な場合があるとしても、学校の教職員として何を基本としておくべきか、トラブルを大きくしないために何をしてはいけないのか、逆に何をすべきか、について講演をいただきました。日々の教育活動で生じる課題であるために、参加者から多くの質疑等が有り、今後の教育活動に向けての有意義な講演となりました。
- ・総合教務必携、学級日誌の検討と発注をおこないました。

ブロックより研究活動・成果について

第1ブロック

カリキュラム・マネジメントの充実をめざして

～新学習指導要領を見すえ、社会に開かれた教育課程の確立～

角 芳 美 (咲くやこの花中)

5月31日(金)に、咲くやこの花中学校において第1ブロック委員総会を開催し、研究主題や事業計画、予算案を審議し、決定した。研究主題については、昨年度に引き続き、「カリキュラム・マネジメントの充実をめざして～新学習指導要領を見すえ、社会に開かれた教育課程の確立～」とし、部門ごとに研究主題、研究方法を設定し、研究授業や教材研究、調査、実践等を行うことにした。教科部門では、個に応じた指導の実践や基礎学力の向上のための指導方法の工夫・改善等を進め、領域部門では、豊かな人間性の育成をめざすこととし、それぞれの課題解決に向けた実践、研究に取り組んだ。

研究の成果に関しては、9月3日(火)を基準日として「1ブロック研究発表会」を開催し、研究授業や研究発表を行い、多くの参加者とともに協議を深めることができた。どの部門も計画通りに研究が進み、教員相互の連携や交流がよりいっそう進んだ。

第2ブロック

未来を切り拓く力をはぐくむ教育の推進

～主体的・対話的で深い学びの充実に向けて～

平 田 武 司 (城 陽 中)

ブロック研究主題をもとに、部門ごとに研究主題を設定し、研究活動を推進した。8月30日(金)を中心にブロック一斉発表会を実施し、今年度は9教科と3つの領域で研究発表会を行った。発表会の内容としては、6つの部門で公開授業を行い、2つの部門で施設見学会を開催した。その他の部門では、研究発表や実習を伴う研修会を実施した。

各会場では、多くの参加者があり、活発な意見交換が行われ、子どもたちの学びが深まる授業の工夫が推進できた。これからも各校と連携を図り教員が情報共有し研鑽できる場としていきたい。

第3ブロック

確かな学力の定着と豊かな心をはぐくむ教育の創造

吉 本 博 志 (市岡東中)

本ブロックは8月30日金曜日に研究会を開催した。今年度は教科を中心として15部門研究発表を実施し、7部門で公開授業、4部門で実践交流会や事例研究会、2部門で講演会、2部門で施設見学会を行った。

公開授業の傾向としては、2年後に導入される新学習指導要領でもうたわれている「主体的・対話的で深い学び」を実践するべく、ワークショップなど小グループでの授業展開を実施している部門が多くみられ、それぞれ準備が進んでいることがうかがえたところである。

また講演会の内容も、発達障がいテーマにしたものやスマートフォン・ネットを取り扱ったものなど、今の学校現場での課題や気になることを取り上げて実施されており、どの会場も多くの教職員が参加していたことが報告書からわかった。

来年度より4ブロック化になることで身近な研究発表会が実施できるのかどうかまだ不明なところであるが、現場のニーズにこたえることのできるこのような研究会が実施できることを望みたい。

第4ブロック

安全な社会で心豊かに力強く生き抜く力を育む教育の創造

土 屋 雅 (大 桐 中)

- ・大阪市教育振興基本計画の趣旨に基づき、安全で安心できる環境で心豊かに力強く生きる生徒の育成をめざして研究を進めた。
- ・ブロック研究主題をもとにして、9月3日(火)を基準日にブロック研究発表会を実施し、各部門で調査・研究活動を推進した。
- ・研究発表会においては、ICT機器を用いた研究授業、研究協議の他、施設見学、実技講習会、ワークショップ等のさまざまな形態を工夫して実施した。これにより、学習指導要領の改訂を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」を具体化するよう努めた。

第5ブロック

主体的な学び・活用能力を進化させ、
社会の変化に対応できる教育を創造する

渡 邊 進 司 (新生野中)

- ・ブロックの研究主題をもとに、各部門で研究主題を設定し、調査・研究活動を推進した。9月3日(火)を5ブロック研究発表会の開催日とし、本年度は領域中心で発表を行った。他に、英語部・音楽部は教科の研究発表会を行った。
- ・各専門委員の先生方が中心となり、研究授業・研究討議・交流会等様々な研修が実施された。ブロック研究主題に基づき、活気ある研究討議が実施された。未来を切り拓く力をはぐくむ、主体的で対話的で深い学びを基礎とした、新たな社会に対応できるスキルをはぐくむ取り組みなど、今後の参考となる内容となった。

第6ブロック

生徒の個性を生かし、
主体的に学ぶ意欲を育てる教育活動の研究と推進

浅 埜 高 司 (長 吉 中)

- ・大阪市教育振興基本計画にもありますように全ての子どもたちの学力を身につけながら健やかに成長し、自立した個人として自己を確立し他者ととともに次代の社会を担うようになることを目指すために、昨年度と同様に「生徒の個性を生かし、主体的に学ぶ意欲を育てる教育活動の研究と推進」を6Bの研究主題とさせていただきました。各教科・部門ごとに主題に即した研究活動・調査を進めました。
- ・8月30日(金)にブロック一斉研究発表会を開催しました。今年度は教科部門中心に研究授業・研究協議等を実施しましたが、特別活動・特別支援教育・保健養護の3領域部門でも研究協議等を実施しました。今後さらに、工夫を重ね、主体的に学ぶ意欲を育てて参りたいと考えています。

第7ブロック

豊かな心を育み、個に応じた、
学ぶ意欲を高める教育活動を創造する

二 井 敦 子 (東我孫子中)

- ・5月28日のブロック総会開催後、各教科・領域で計画を立て、9月3日を中心に研究発表会を実施した。
- ・各研究会場において、研究授業・研究協議・実践報告・研究発表・講演会・実技研修・生徒会交流・施設見学会と、さまざまな研修を通じて、教員相互に研鑽を深めることができた。今後の各校の取り組みの参考になる内容となった。

第8ブロック

豊かな心と未来を切り拓く力をはぐくむ教育の創造

竹 内 直 樹 (高 津 中)

- ・ブロックの研究主題をふまえ、部門ごとに研究主題を設定し、研究活動を行った。
- ・ブロック一斉研究発表会を8月30日(金)に開催した。14部門が公開授業・研究協議、講演会や実技研修・施設見学等を実施した。ICT機器を活用した授業をはじめ、各教科・領域における各校の取り組みや課題について教員が互いに意見交流を図り、新たな発見や成果を得ることができた。

令和元年度 大阪市立中学校教育研究会 評議員会記録

第 5 回 評議員会

令和 元 年 11 月 14 日 (木) 14:30～

於:大阪市教育センター

- (1) 全市研究発表会について
- (2) 研修計画について
- (3) 研究集録『研究の歩み』について
- (4) 小中一貫教育委員会について
- (5) その他
 - ① 令和 2 年度の予定について
 - ② 会計事務連絡について
 - ③ 連絡事項

第 6 回 評議員会

令和 2 年 1 月 24 日 (金) 15:00～

於:アウィーナ大阪

- (1) 本年度のまとめ
- (2) 本年度会計について
- (3) その他
 - ① 来年度の日程について
 - ② 中教研会報について
 - ③ ホームページについて
 - ④ 本部役員選考委員会について
 - ⑤ 中教研組織改選等について
 - ⑥ その他
 - ・小教研総研等への参加について

令和 2 年度 大阪市立中学校教育研究会 組織改選について (予定)

目 程	内 容	目 程	内 容
3月 下 旬	○書記より各校に、「部門別会員名簿作成依頼」を送付	5月 上 旬	○各部門の部長は、部長、副部長、会計、小中連携担当、ICT、HP担当及び専門委員の選出を行う。⇒書記に送付 (副部長は 2～3 名程度、専門委員は各ブロックに 3 名程度)
4月 9 日(木)	○各学校において「部門別会員」を確認		
4月 16 日(木)	○各学校より部門別会員名簿を書記に提出 ○本部役員選考委員会による本部役員の選考	5月 中 旬 5月 下 旬	①各ブロックにおいて委員総会を開催し、ブロック委員長、副委員長、会計、専門委員の選出を行う。⇒書記に送付 ※ブロック委員長と部長は原則兼ねない。 ※専門委員の選出の際は、各部長との調整を行う。 ②ブロックの研究主題を検討・決定する。⇒書記に送付
4月 21 日(火)	○本部役員の指名、全体会の案内状を送付	5月 27 日(水)	○中学校教育研究会全体会 ※本部役員の選出 ○各研究部 ・専門委員及び部長、副部長、会計、小中連携担当、ICT、HP担当を選出する。⇒書記に送付 ・研究主題等を決定する。⇒書記に送付
4月 21 日(火) 4月 28 日(火)	○書記より、各学校の部門別会員名簿を 17 部門の部長に送付		
4月 中 旬 4月 下 旬	○4つのブロック委員長へ文書「ブロック委員長の役割」を送付 ○各ブロック委員長より各部門担当校長名簿⇒書記に送付 ○書記が各部長に各ブロックの担当校長名を連絡 ○各部長とブロック担当校長とで専門委員の調整	6月 中 旬	○各ブロック ブロックの教科・領域担当校長と各部長とで連携し、ブロック内の専門委員の追加・訂正を行う。

※表中の提出・送付となっているところは、Skip による送受信で行う予定。

令和 2 年度の日程

中教研全体会 … 5 月 27 日 (水)

全市研究発表会 … 10 月 14 日 (水)

全体研修会 … 11 月 12 日 (木)

令和 元 年度 大阪市中学校教育研究会・全体研修会

令和 元年 11 月 14 日 (木)
於：大阪市教育センター

「主体的・対話的で深い学びの充実」

ー 新学習指導要領を踏まえてー

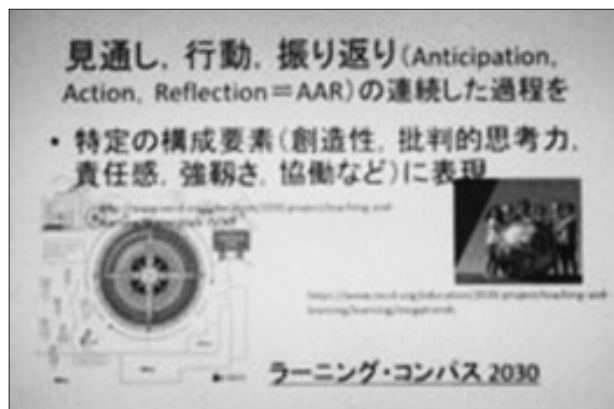
大阪教育大学 教授 峯 明 秀

1. なぜ、今「教育改革」なのか

21世紀を「生き抜く力を育む」学習指導要領改訂のポイントとなるのが、「主体的・対話的で深い学び」と情報活用能力であるとされている。この改革の大本にあるのは OECD ポジションペーパー「Education 2030 プロジェクト第1期」である。

浸透したキャッチコピーを改めて見てみよう。

「2011 年小学校入学児童の 60%の児童は、2027 年には、今は存在しない職業に就くだろう。」江戸時代までであった「駕籠屋さん」という仕事がなくなったように。めまぐるしく変化する現在、小学 6 年生の将来の夢の上位はすでに「YouTuber」「e-sports」となっている。AI（人工知能）が可能なことは職業から消え、「人と関わる仕事は残る」ということ。例えば、金融取引はビッグデータが処理することで「トレーダー」は必要なくなり、無人のコンビニが増えることで「店員」は必要なくなる。顔認証システムや電子マネーなど、我々が考えている以上に、世界の変化は進み、そのスピードは加速している。



政府広報「Society5.0 に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」の動画を見たことがあるだろうか。社会問題を解決していく近未来の暮らし方の具体例がそこにある。「ドローンによる宅配」「A I 家電」「遠隔診療」など。福島県などでは広大な田畑に cm 単位の精度で農作業ができる「スマート農業」のモデル作りが始まっている。その他「会計クラウド」「無人走行バス」の実用化も始まっている。

2. これからの時代を生き抜く子どもたちに、どのような「教育」が必要なのか。

「Education 2030 プロジェクト第1期」の目的

- ・現代の生徒が成長して、世界を切り拓いていくためには、どのような知識や、スキル、態度及び価値が必要か。
- ・学校や授業の仕組みが、これらの知識やスキル、態度及び価値を効果的に育成していくことができるようにするためには、どのようにしたらよいか。

先進国の教育大臣らは、日本の教育（高校生のプレゼン）のレベルが高く、驚いているという事実がある。日本の学校教育にある「知・徳・体」、「粘り強さ」が注目されている。例えば掃除や日直、部活。そこに心や感情がこもっているということだ。

この場に集まっている学校のリーダーやミドルリーダーに、上記の目的を達成するための次の問いについて考えてみてほしい。

Q. 目の前の子ども達にどのような力が必要だと考えているか？（峯 教授）

A. 「基礎学力」「数理・論理・倫理」「伝える力」「決断力」「粘り強さ」

「コミュニケーション能力」「やればできるという自己効力感」など。（参加者ら）では、自校の授業で上記の力がついているか？ 各教科の授業で、このような力をつけようとしてカリキュラムを立てているか、考えてみてほしい。OECD 教育 2030 では、「生き延びる力」を以下の 3 つの力と定義している。

- ・新しい価値を創造する力……新しい製品やサービス、新しい社会モデルを他者と協力して生み出す力、適応性、創造性、好奇心、他者をオープンに受け入れる心
- ・緊張とジレンマの調整力……平等と自由、自立性と地域利益、変革と継続性など様々な競合する需要間のバランスをとる力
- ・責任をとる力……自らの行動の結末を考慮する力、自分の仕事の成果について責任をもって説明できる力、自ら評価できる力、自己効力感、責任感、問題解決能力、適応能力など

これらは、外交官の持っているコンピテンシーから生まれたものだが、それぞれの職業に必要なコンピテンシー（高い業績・成果につながる行動特性）がある。「キー・コンピテンシー（自分自身の人生を成功させ、社会全体に利益をもたらせる人が共通してもつ能力）」が、「21 型スキル」と言われるものだ。膨大なデータはコンピュータが処理してくれる。そのような社会で、人としてどのような力が必要か。それを学習のプロセスのデザインに立ち上げていくことが、学校教育に求められていることである。例えば、算数の問題で、「決められた時間に到着するには、スタートからゴールまでの必要時間を逆算してスタート時間を答える」のだが、児童の答えのなかに「5 分前集合」で計算している児童がいるとする。これが、まさに「生きる力」ではないだろうか。つまり、学校で学んでいることや経験が、実社会でどれくらい生きてくるのか、これが新しい教育の価値なのではないか。

3. 「カリキュラム・マネジメント」の実際

「カリキュラム・マネジメント」は管理職がするのではない。実施する「カリキュラム」とは、目の前の授業を子どもやつけたい力に応じて実施していくことであるからだ。

場合によって、ある分野で子ども達の方が進んでいるとしても、教師はファシリテーターとして介在するという役割を担っている。次を念頭において「カリキュラム」を立てる。

- ・「没頭」エンゲージメント……「今、ここ」での心理的没頭のこと。学習者が真剣に学びに向かっているのかを看取る
- ・「主体的・対話的で深い学び」……わくわくしている、知りたいと思っている、理解したいと思っている
- ・「自己調整学習」……学習者が目標の達成に向けて自らの認知、情動、行動を体系的に方向づけて生起させ維持する過程（①メタ認知・②学習方略・③動機づけ）

4. 「カリキュラム・マネジメント」のポイント

- 「言語活動」でしか判断できない内容があること * 授業者が意図的に授業に取り入れることが重要
- わかりやすい評価のための枠組みを作ること
- 評価価値尺度評定の共有 * その学習課題は学習者にとって、どんな価値があるのか。
- 学習の動機づけを仕掛けること * はっきりと学習の意味を学習者が理解することが意欲を駆り立てる
- 深いアプローチとは何かを教師が考えること * 意味を理解すること＝どんな問いが必要か？

世界の国の教育のカリキュラムは学問が内容過多になっている。本当の意味でのカリキュラムの再編が行われるだろう。「教育改革」の潮流の中からうまれた「新学習指導要領」である。各校で、授業や行事の取り組みをもう一度見直し、学習者が主体的に学ぶカリキュラムを考えて実施する必要がある。